

三中だより

令和4年度 7月号



令和4年7月15日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 6)
校長 小柴 憲一

「社会を構成する一員」としての自覚をもたせること

本校の経営目標の筆頭に、『社会を構成する一員』としての自覚をもたせるために・・・とあります。

「社会を構成する一員」としての必要な資質・能力は様々あり、子どもたちはあらゆる教育活動を通してそれらを身に付けているところですが、最も重要なのは「自分は社会を構成する一員なんだという自覚をもつ」ことです。なぜなら、その自覚がなければ、せっかく身に付けた資質や能力も有効に働かそうとはせずに、宝の持ち腐れとなってしまうからです。

そこで、「社会を構成する一員」としての自覚をもたせるための教育活動の一つとして学校行事があるのです。

1学期は盛りだくさんの行事がありました。

月日	行事	高まる自覚
4月8日(金)	生徒会オリエンテーション	○三中生の一員として、自分たちの生活をよりよくしていこう。
5月11日(水)	生徒総会	
5月18日(水)～20日(金)	3年生修学旅行	○集団で宿泊し行動するために、互いに譲り合い、班や学級のために自分の責任を果たそう。
6月1日(水)～3日(金)	2年生下田移動教室	
6月22日(水)～24日(金)	三組清里移動教室	
7月4日(月)～6日(水)	1年生清里移動教室	
5月28日(土)	運動会	○係の仕事を全うして運動会を成功させよう。 ○学級の一員として、学級の気運を高めよう。
6月4日(土)	汐入小学校運動会ボランティア	○地域の一員として、地域活動に貢献するとともに、小学生とともに活動して地域の活性化を図ろう。
7月3日(日)	鉄人レース・イン・汐入ボランティア	
7月6日(水)	小中合同あいさつ運動	
7月15日(金)	ごみゼロ作戦	
7月19日(火)	美化活動	○学校の一員として、利用した校舎に感謝してきれいにしよう。

教科の学習は大切です、学校生活の中で大部分を占めますが、これらの行事とその前後の準備や学習を通して身に付けられる三中生としての自覚が、将来的には社会を構成する一員としての自覚をもつことになるのです。一方で、これらの行事を経るごとに、子どもたちの「学級を構成する一員」「学年・学校を構成する一員」としての自覚が高まり、校内における委員会や係活動、日直・清掃・給食などの当番活動も主体的になってくるのです。

そして結果的に、教科の学習でも活発な議論が交わされたり、互いに学び合う姿勢が身に付いたりして学習効果も高まっていくのが、「集団で学ぶ」という性質をもつ学校の意義なのです。

お子さんとの会話を充実させるために

今、お子さんとの会話はどのようなものがあるのでしょうか。ご家庭によっても違うでしょうし、お子さん自身があまり話したがらなくなっている場合もあるでしょうが、お子さんから出てくる話のネタは、学校の授業の話・部活動の話・習い事の話・友達の話・ほしいゲームソフトの話などではないでしょうか。

これらは、話し手(お子さん)の話す欲求が満たされ、他方は聞くことにより話し手を承認することにより、お子さんの家庭内での居場所ができるという一定の効果があります。

しかし、中学生という発達段階であるならば、そろそろ対等な会話を成立させていきたいものです。先ほどのようなお子さんだけが体験した題材だけでは、どうしても「話し手と聞き手」になってしまいますので、双方が同じ体験をした題材を見つけ、そこに会話を成立させていく必要があります。

簡単な例で言えば、同じ料理を食べたとき、旅行などに行って同じ景色を見たとき、同じ映画を見に行ったときなどが考えられます。同じ体験ですから、自分の感じ方を話したり、相手の感じ方を聞いて意見をしたり共感したりして、同じ体験を思い出深いものにすることができます。

しかし、42日間という長い夏休み、会話をより一層知的なものにすることを考えてみたらいかがでしょうか。

それは、言語を読んだり聞いたりして考えさせられたことや分かったこと、あるいは感動・疑問・驚きなどの感性を揺さぶられたことを互いに話してみることです。できることなら、音声言語を聞くよりも文字言語を読むことの方が知的な活動になります。

作家や情報の発信者には何らかの意図があるわけですが、文学作品であれば読み手の生活体験によって強く感じ取る場面も違うでしょうし、当然のことながら感じ方も違って当然です。国内外の時事問題などであれば、事実と情報発信者が意図する発言を区別して理解した上で、自分なりの考えや解決策を述べたり、情報発信者の意図する発言に対する批判をしたりすることもできると思います。それらが保護者の方とお子さんとは同じである可能性は低く、だからこそ、その会話が知的になるのです。

中学生とは、まだ子どもではありますが、心の中では「大人扱いをしてほしい」という欲求があります。ですから、そのような知的な活動を通して、大人と対等な会話をするのができたというのは、ただ単に自分の経験を聞いてくれて満たされ承認されたという思いよりも、質的に非常に高い満足感として心に残るのです。そして、そのような経験をされたおさんは、保護者の方を保護者と認めつつ、自分の評論を紹介するようになったり、保護者の方からの助言を自分なりに考えて吸収したりしようとするようになります。

そこで、そのような知的な会話をするきっかけとして2つ紹介します。

1 新聞の社説を材料にする。

社説は筆者の考えが端的にまとめられている文章です。簡単に読むことができ、賛成・反対を含め自分なりの考え方もつくりやすくなっています。保護者の方とお子さんで交互に社説を読んでみて、それを材料に会話をしてみたらいかがでしょうか。

2 「家読」をする

荒川区教育委員会で「家読」を推奨していますが、私は、読んで終わりにしたらもったいないと考えています。「家読」は家庭内で知的な会話をするための絶好の機会です。そもそも、お子さんが読んでいた本を保護者の方が「私にも読ませてくれる」と言って読んでみることで、お子さんにとっては、とてもうれしいことだと思います。

まずは、保護者の方が照れくさいと思わず、「○○の感想を聞きたいんだけど」と切り出す勇気をもって、より一層知的な会話をしてみてください。

都立産業技術高等専門学校(荒川キャンパス)の特別推薦制度

このことにつきましては、毎年「三中だより」で概要をお知らせしているとともに、6月25日(土)の都立産業技術高等専門学校(荒川キャンパス)で開催された特別推薦制度説明会に参加された保護者の方は、よくご理解されていることと思いますが、多くの1年生の保護者の方々はご存じないことだと思いますので、今回の三中だよりで改めてご説明申し上げます。

2年前に、都立産業技術高等専門学校(荒川キャンパス)は荒川区教育委員会と特別推薦制度に関する協定を締結し、荒川区立中学校10校を連携校として指定しました。

特別推薦制度の概要は、中学校2年生の段階で特別推薦の受検を希望する生徒が在籍校に応募書類を提出し、校内で応募書類審査・成績・面接等により2名までが教育委員会に受検候補者として報告されます。そして、受検候補者となった生徒は、2年生から3年生にかけて2回のスクーリングに参加し、最終的に区内で2名の生徒が特別推薦受検者として選出され、その2名は同校の特別推薦入学選抜を受けることとなります。また、2回のスクーリングに参加して特別推薦受検者として選出されなかった場合でも、同校の通常の推薦に基づく選抜を受けることはできます。

大まかなスケジュールは下の表の通りですが、本制度による受検を希望する2年生の場合は2学期の生活態度や成績が重要になってきます。また、1年生の場合も、本制度に関心がある場合は、今から高い学習意欲による生活を送るとともに、特に関係する教科については十分な成績を収めておくことが可能性を広げていくこととなります。

この夏休みに、1・2年生の保護者の方は、お子さんと中学校卒業後の進路の話をするときの一つの材料としてください。

第2学年		
12月	特別推薦受検希望者募集 学校より教育委員会へ報告	【報告基準】 1 卒業時まで荒川区立中学校に在籍の見込みがあること 2 基本的な生活習慣が確立している生徒 3 ものづくりに高い志があるもの 4 第2学年2学期の数学、理科、技術・家庭の評定合計が12程度の生徒 5 1校2名まで
3月	第1回スクーリング参加 会場:都立産業技術高等専門学校 ※スクーリングについては、2回の参加が必須条件	



第3学年	
7月	第2回スクーリング参加 会場:都立産業技術高等専門学校 ※スクーリングについては、2回の参加が必須条件
10月	連携委員会に向けて、学校から教育委員会に必要書類を提出
11月	連携委員会にて区内の2名の特別推薦受検者を選出 ※連携委員会には区立中学校の校長を含む教員は参加しない ※第3学年1学期の数学、理科、技術・家庭の評定合計12以上が望ましい
1月 2月	出願・特別推薦入学選抜、可否確定 ※選考方法は、小論文、面接

2学期の行事並びに全校集会等について

7月11日時点では、本校ホームページでも毎日更新しておりますとおり、新型コロナウイルス「都内新規感染者数の7日間移動平均」は、第6波の際の1月中旬から2月初旬にかけての増加割合と同様な割合で感染の急拡大を示しており、病床利用率も40%に迫る勢いです。また、7月6日の東京都の専門家会議では「第7波に入ったのではないかと」という発言があったとの報道もありました。しかし、現在でも、感染防止策をとりながら、経済・文化・スポーツ・芸能などの活動を活発に行うことに対して、国は特別な制限を与えてはおらず、各自治体・町会・主催者等の判断に委ねているところです。

一方、本校では、先月から、2学期の輝汐祭・舞台の部で合唱コンクールを開催する方向で検討を進めてきております。2年間、歌う経験をしてこなかった子どもたちですので、作品の高い完成度を求めるわけにはいきませんが、ここから再び三中の新たな伝統を築き上げていくこととなります。3年生にとっては、難しい挑戦となるかもしれませんが、まずは土台を作ってもらうことを期待しているところです。

さて、前述しましたとおり、新型コロナウイルス感染急拡大に伴う今後の状況が懸念されるところですが、参議院議員選挙後も緊急事態宣言・まん延防止等重点措置などが発出されず、国・東京都・荒川区から教育活動の制限に関して通知されない場合、当日は、全校生徒を体育館に入れて実施する予定です。また、合唱する際はマスクを外させる計画です。当然会場内では、ステージから最前列までは一定の距離をとることとなっております。したがって、保護者の方にご入場いただくスペースはありませんので、入学式や卒業式同様に、体育館からのライブ配信とさせていただきますことをご了承ください。

なお、現在の企画で合唱コンクールを実施することに変更がない場合は、2学期の始業式から全校生徒を体育館に集めて実施する予定です。全校朝礼や生徒会朝礼についても同様です。

子どもたちには、全校生徒が体育館にいるときのルールを身に付けてもらいたいと思います。

(7月11日時点の執筆)

お知らせ

- 8月28日(日)の「汐入まつり」に、以下の子どもたちがボランティアとして参加します。
 - 1年 小林 佑光、渡辺 麻由、杵島 輝、佐々木 友花、竹内 春花、中村 嵩、弘松 帆夏、南 澤準、朝日 心菜、柴田 真衣、高田 百花、山口 玲菜、小野 陽香、杵島 希、桑田 悠愛、澁谷 厚ノ輔、三森 心渚、赤坂 汐梨、飯島 康太、大森 藤子、佐野 栄太、諸岡 遥斗、山賀 瑛斗
 - 2年 安藤 珠希、飯島 翼、五十嵐 菜々花、大杉 司、木村 美咲、西久保 冬馬、原田 匠実、古谷 華蓮、大杉 眞吾、山本 さくら、渡邊 奏志、バログン ハル、増田 紬、新井 琉南、太田 咲良、加藤 吏乃、清野 まいあ、秦 柚葉、鈴木 万由華、染井 智幸、福岡 優太、渡邊 彩恵
 - 3年 朝倉 佳奈、安達 泉奈、新井 大翔、飯島 駿、飯塚 葵、神谷 鷹秀、木村 颯汰、櫻井 将成、澤田 湮奈、鈴木 柊駕、鈴木 竜丞、古橋 ファリス、宇田 一稀、加藤 愛子、藤井 優香、宮原 立、岩堀 笑心、緒方 かれん、眞田 空、宍戸 美緒、清水 百音、田尻 夏葵、林 優凜、松本 錦昊、上野 雅佳、菊澤 真結、木谷 剛尚、櫻井 結月、下條 櫻奈、高羽 桃葉、高橋 蒼土、原 悠華、森田 葵生、山下 千鶴、渡部 華乃
- 令和4年度台東区年代別卓球大会において以下の成績を収めました。
 - 女子ジュニア 第1位 伊藤 紗英佳(2年)、第3位 國近 咲希(2年)・安部 凜咲(2年)
 - 男子ジュニア 第3位 大杉 眞吾(2年)・大岩 勇翔(2年)
- 第75回荒川区中学校総合体育大会卓球の部で以下の成績を収めました。
 - 女子団体 第1位 【弘松 帆夏(1年)・伊藤 紗英佳(2年)・國近 咲希(2年)・芳沢 愛香(2年)・安部 凜咲(2年)・内田 はな(2年)・藤永 美心(2年)】
 - 女子シングルス 第3位 國近 咲希(2年)
- 第38回荒川区中学校総合体育大会バドミントンの部で以下の成績を収めました。
 - 女子シングルス 第1位 矢野 一杏(3年)、第2位 別府 優虹(3年)、第3位 中條 珠妃(2年)
 - 男子シングルス 第3位 大越 修造(3年)
- 夏季総合体育大会バスケットボールの部で以下の成績を収めました。
 - 女子の部 第3位、男子の部 第3位
 - ※大会を通して以下の選手が優秀選手賞を受賞しました。
 - 米田 実乎(3年)、飯田 棕介(3年)
- あらかわ区報 Jr9月号で以下の生徒が汐入地区を紹介します。
 - 寺澤 拓海(3年)、間中 新太(3年)

保護者・地域の皆様、1学期の間ご理解・ご協力賜り、誠にありがとうございました。